

関根学園高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容

開催日：令和7年7月17日（木）

会 場：関根学園高等学校 2階 視聴覚室

参加者：15人

市長から高校生への質問（若者の働く場について）

（市長）

皆さん、地元就職する場合に、例えばどのような支援や情報提供が必要か、お聞きしたいと思います。

（生徒）

私は、もっと積極的に会社のパンフレットなどを各高校などに送った方がいいのではないかと思います。

その理由としては、私は生まれてからずっと上越市に住んでいますが、身近にどんな会社や企業が活躍しているのか、今年3年生になって自分で調べて知ったことの方が多くて、もっと高校1年生の頃からよく知っておいた方が、就職先を考える上で幅が広がると思ったからです。

（生徒）

3年生になって就職や進学を考えたり、友達と話したりするときに、企業の求人票が目に残ることがあまりありません。初任給や有休、どのような仕事なのかなどを求人票で分かりやすく学校などに貼り出したら、生徒の目にも留まって、「この企業もいいんじゃないか」などの話し合いができるのではないかと思います。

（生徒）

私は上越市に住んでいないので、上越市にどのような企業があつて、どのような人材を必要としているのかが分かりません。もっと上越市の企業が生徒に向けて、「こういう人が欲しい」などのアピールができる場があるといいなと思いました。

（市長）

一番大切なのは、「自分は何が好きなのか」を考えることじゃないかと思っています。自分がやりたいことは何なのか、私も高校生のときにはぼんやりとしか分かっていなくて、結局結論なんか出なくて、大学で習っていたことは今仕事としては一切やっていないので、自分のやりたいことを探すのは大変なことです。自分がやりたいことと仕事が重なるといえるのは、これは多分人生をかけてやらないといけないことだと思います。

あと、企業の方、特に地元の中小企業からすると、本当に人手不足で困ってしまっていて、ぜひ自分のところに勤めてもらいたいと思っている企業は、山ほどあります。ですので、

関根学園高等学校・生徒と市長との対話集会 意見交換の内容

私たちもできるだけ皆さんにそういう情報を見ていただけるように、例えば「上越妙高求人・求職ポータル」というホームページには、現在、100社を超える企業の会社情報、求人情報が出ています。7月に入って、学校を通じて皆さんにこのサイトのPRチラシデータを配信しましたので、ぜひご覧いただきたいと思います。また、各高校が実施する企業見学ツアーへの支援や合同企業説明会なども開催していますし、市内の団体が、地元企業での職業体験イベントも行っています。

皆さんが求める情報を本当に得たいのであれば、いろいろなところに情報があります。待っているのではなくて、自分から探しに行くということも、主体的な行動として大切だと思います。本当にやりたいことが見つかるかどうかは分かりませんが、自分の好きなことを突き詰めて、何をしたいのかを考えて、考え続けることが大切なのかなと思っています。

私も、自分の目的として「この地域を活性化したい」という思いがありまして、その1つの手段として今市長をやっていますし、その前はNPO法人をやっていましたが、目的は同じなんですよ。ですので、自分が何を求めているのかをずっと考えていくと、自分がやりたいことが仕事と重なって、楽しいのかなと思います。

（生徒）

私は上越市に10年以上住んでいて、市内で就職をしたいと考えているのですが、いろいろな企業の職場環境をもっと知りたいなと思います。

理由として、最近では、若者が仕事へのモチベーションが下がったり、うつ病になってしまったりして、結局転職をしてしまう流れがある気がしていて、就職先を決める上で、その会社の職場環境がどのようなものかを知りたいと思うからです。

（生徒）

自分に合った仕事を見つけやすいように、いろいろな企業や会社などがイベントを開いて、情報を知ってもらうことも必要なのかなと思います。

理由は、「地元こんな企業があったんだな」と改めて知ることができ、仕事が見つけやすいと思ったからです。

（市長）

分かりました。

関根学園高校の皆さんも、高校生の集まりの場を作りたいということをおっしゃっていますが、私とすると、例えば、「自分の会社に就職してもらいたい」と思っている地元企業や団体の情報を集める、あるいはそこに行ったら簡単な企業体験もできるとか、そういう場所を設けたいなと思っています。特にこの辺りは高校がたくさんありますし、専門学校や大学もありますので、就職したい人とそれを求める雇用する側の人たちの出会いの場

**関根学園高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容**

というのは、作っていかねばいけないと思っています。

現在の取組として、市で就職セミナー、応募前の企業説明会、大学生等を対象とした合同企業説明会などを開催していますので、もちろん学校にも相談してもらいたいと思いますが、アンテナを張れば、いろいろなところにいろいろな情報があります。市の産業政策課に問い合わせただいても情報を提供できると思います。自分が求める気持ちが強ければ強いほど、そこに近づくとと思います。

市長から高校生への質問（地域の魅力発信について）

（市長）

私は、本当にこの上越のことが大好きになったから今でも住んでいるわけですが、地元はずっと住んでいるとなかなか見えづらいものがあると思います。例えば夏になると、私の家では玄関を開けると蛍を見ることができます。土の側溝があって、カワニナっていうのがいて、そのカワニナを蛍の幼虫が食べて大きくなるんですけど、娘が「ホタルって、玄関開けたらみんな見れるんでしょ」って勘違いしているわけですね。「それは違うよ、そんなことはあんまりないからね」と言うんですが、地元にあるものの魅力というのは、なかなか気づかないと思っています。

ですので、皆さんが日頃暮らす中で、これは美しいなとか、これは素晴らしいなと感じたところを、素直な気持ちでお聞きできればと思っています。

（生徒）

私は今、直江津の方に住んでいるんですけど、上越には海と山があり、私のところから車で20分程度で海や山にも行けたりして、景色がきれいなところに魅力を感じています。その他にも、食材の種類が豊富なところ、春夏秋冬の四季がはっきりしているところ、県内や県外、どこに行くにも交通のアクセスが良いところ、子育ての支援が充実しているところ、日本の歴史や文化が詰まっているところなどにも魅力を感じます。

（生徒）

山と海があって、自然をどちらも楽しめるところに、私は魅力を感じます。

（生徒）

上越市は、人に自慢できるくらいたくさんの自然や歴史・文化があるところに魅力を感じます。一番は、高田城址公園の桜が、いろいろな人の手によって守られているところが好きです。より多くの人に歴史や文化に興味を持ってもらうために、体験イベントなどで上越の歴史の深みを伝えられたらいいのかなと思います。

関根学園高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容

（市長）

皆さん、ちゃんと地元の魅力を分かっているんじゃないかなと思いました。

私も、関西とか、大学に行っているときは広島にいましたけども、日本海の海ってきれいなんですよね。行きたいと思っても、高速道路で1時間以上かかりました。上越市の、きれいな海、きれいな山が目の前にあるというこの環境は、私としては非常に魅力なわけですね。

例えば、都会にいと夜中に空を見てもなかなか星が見えないんですけど、こちらだと、どの星座がどこにあるか分からないぐらい星がたくさん見えるんですね。ですので、日々そういう魅力を感じながら生きるということは、私は人として幸せなことなんじゃないかなと思っています。

茶道の中でも、例えば植物、花、お菓子とか、その季節ごとに美しいと感じるものを少しだけ分けていただけておもてなしをするんですけど、そういうことを感じられるということは、非常に心を豊かにしていくんじゃないかなと思っています。

私にとって一番印象に残っていて、日本の中でも一番有名なのはやはり上杉謙信公と春日山城だと思っているんですけど、私が今住んでいる地域は、謙信公の時代、城付き百姓だったと伝わっているところで、昔はみんな短い刀を持っていたんですね。あと、直江兼続って、上杉景勝公の家臣で、徳川家康に「直江状」というのを送った人なんですけど、その人は桑取を訪れているんですね。歴史上のことを、地元の皆さんがあまり知らずに生きているかなと思っていて、そういうものを掘り起こしていくと、非常に面白い地域だなというのがあります。

（生徒）

自分は今、上越市に住んでなくて、他の市から見た上越市の魅力を話したいんですけど、まず自然が豊かで、食べ物おいしい、そして歴史について学べる場所が多いという点ですね。

この魅力を、歴史について興味を持っている人に発信していきたいと思っていて、「もう一度来たい、そう思える場所、上越」というのをキャッチコピーにしていきたいと思っています。まず数字などを用いたりして具体的な数値を出し、今まで来た人の割合、人数の増減、何を目的に来た人が多いのかななどをグラフにすると、他の県や市に住んでいる人が「上越にはこんなところがあるんだな」と分かりやすくなるので、行きたい人が多くなると思います。

（市長）

非常に大切なことをおっしゃっていると思います。

この間、岡山県の瀬戸内市に行ってきたんですけど、あちらは全く雪が降らないところなんですね。道路の雪を脇の歩道にロータリー車で上げている写真をお見せしたら、「こ

**関根学園高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容**

んなに雪が降るんですか」と驚いておられました。そういう人たちからすると、雪国というものを見たいんですよね。

また、外国人の方が大勢日本に来ていますので、新潟県や上越市にも多くの方から来ていただきたいと思っています。

おっしゃったように、歴史や文化に関心のある人たちがたくさんいて、その人たちをおもてなしするためには、こちらもやはりある程度準備をしなければいけないんですよね。そういう視点でこのまちを作っていくと、より魅力あるところになるんじゃないかなと思っています。

この間、「榊原サミット」で兵庫県の姫路市に行ってきた、そこで群馬県の館林市長や愛知県の豊田市長に、「今度、上越市で榊原サミットを開くのは、どの時期がいいですか」と聞いたら、「雪のあるときにやってもらいたい」と言われるんですよ。「除雪をさせてほしい」ということをおっしゃっていました。なので、私たちが厄介と感じている地元の雪を、逆に魅力に感じている。例えば、お米を売るにしても「雪解けの水を使った米です」とか、お酒の場合も「雪解けの水でできた日本酒です」というと、それだけで魅力が増すんですよね。

ですので、どうしたらよそから来た人に喜ばれるか、どういう準備をしたらいいかっていうことを考えることが必要だと思っています。

（生徒）

上越は食べ物が本当においしくて、特にお米が全国的に有名なんですけど、「上越野菜」などのお米以外の食品も、全国にもっとアピールしてもいいんじゃないかなと思います。

（市長）

まさしくそのとおりです。

お米が本当においしいので、できるだけ売っていきたいと思っていますし、みそやお酒などの発酵食品も非常に魅力的です。しょうゆやみそもみんな地元で作っていましたし、ご飯を美味しく食べられる発酵食品って何だろうと考えると、季節ごとにいっぱいあります。汁ものもおいしいです。よそから来た方に、雪国の文化でこういったものを食べていたかを体験していただくような演出をすると、面白いんじゃないかなと思っています。

（生徒）

上越市の魅力はやはりお米だと思うので、ご飯が好きな人に、郷土料理についても伝えていけたらいいのかなと思います。

（市長）

まさしくそのとおりです。

関根学園高等学校・生徒と市長との対話集会 意見交換の内容

他の地域に住んでいる上越市出身の方はたくさんいらっしゃるって、その人たちは、定期的に集まって、昔の郷土料理を作ったり食べたりして懐かしんでいるんですけど、そういう人たちから意見をいただくとか、よそに住んでいるからこそ分かる上越市の魅力というのを、私たち自身も知っていかなければいけないんじゃないかなと思います。

東京にも、第一線で活躍している上越市出身のシェフが何人もおられるそうで、おそらくその人たちは、上越市の農産物を仕入れてくれていると思います。そういう人たちから、その農産物がどれだけおいしいのかを評価してもらいたいんじゃないかと思っています。よそからの評価というのは、先ほども言いましたが、なかなか自分たちでは分からないところがありますので。

郷土料理についても、私も以前は地元のお母さんたちと山菜を採りに行ったり、レシピを作りながら販売もしたりしてましたが、どうやったらおいしいものができるか、知れば知るほど面白くなりますので、ぜひ皆さんにも体験していただきたいと思っています。季節ごとに非常に豊かな食生活がありますので、また、皆さんとそういった交流もできたらいいなと思っています。

（生徒）

最近はどこでも農家の生活が苦しくなっていると思うので、市の方で農業者への支援を手厚くして、それを全国に向けて発信することで、市外・県外の農家を上越に招き入れた方がいいと考えています。それによって、人手不足の解消にもつながると思います。

（市長）

今いろいろと「米を安くしましょう」という動きがありますが、農家からすると「どこまで高くなるのか」、消費者からすると「どこまで安くなるのか」というところのせめぎ合いだと思っています。昔に比べると米の値段は上がっていて、例えば農業用の機械を買うにも相当なお金がかかりますから、生産者にとっては少し良い状況にはなっているんですけど、消費者からすると負担が大きくなってしまうので、そこはサポートしていかなければいけないと思います。

他の地域から上越に来て農家を継ぐということは、なかなか難しい部分がありますが、新しく農業をやってみたいという人がきちっと会社や農事組合法人などの組織に入って働く、そういう形であれば、外から来てもしっかりと働ける可能性は十分あるんじゃないかなと思っています。

私たちとしても、自動で農薬や肥料の量を調整するとか、自動で動くトラクターとか、先端技術を用いた「スマート農業」をうまく取り入れながら、できるだけ生産性の高い農業ができるような環境を作っていかなければいけないと思っています。

関根学園高等学校・生徒と市長との対話集会 意見交換の内容

高校生から市長への質問

(生徒)

先ほど市長がおっしゃっていたように、中小企業の人手不足だったり、農家の後継ぎがいなかったり、人手不足が年々深刻になってきていると思うのですが、その1つの原因として、日本全体でも問題になっている少子高齢化があると思います。上越市ではどんな少子高齢化対策をしているのか、具体的に教えていただきたいです。

(市長)

例えば、若者への奨学金の返還支援、若者や団体のまちの活性化の取組などを支援する「地方創生若者重点支援補助金」、高校生への通学定期券の購入補助、住宅リフォーム促進事業の「子育て・若者夫婦世帯支援枠」など、さまざまな取組を進めています。また、子育て支援に関しては、出産前も含めて、子育てをされる皆さんが悩み事を抱え込まないように、相談窓口をたくさん設けています。

根本的な課題として、進学などで市外に出ていかれた若い人が、そのまま帰ってこない割合が非常に高いというのがあります。私たちとすると、先ほど申し上げたように、「この上越市はたくさんの魅力があって暮らしやすいまちですよ」、あるいは、「歴史文化もたくさんあるまちですよ」ということを、若い人たちから知っていただかなければいけないと思っています。そういうことを、私も繰り返しお話ししています。

子どもや孫に、「大学に行って、有名な企業に勤めなさい」と言う大人の方が結構いらっしゃいます。それだけではなくて、非常に暮らしやすく、子育てもしやすく、おいしいご飯も食べられる、そんな上越市で暮らすことも私は1つの幸せだと思っています。私は、都会に住んでいたときの思い出と比べると、こちらでの暮らしの方がよっぽど魅力的だと思っています。

(生徒)

上越市は、車を持っていないと生活ができないぐらい交通事情が厳しいので、バスをはじめ、電車などの本数を増やしてほしいです。

(市長)

今、上越市には、えちごトキめき鉄道、北越急行、頸城自動車とそのグループ企業のバス、タクシーといった公共交通機関があります。

私たちとすると、地元の住民や生徒さん、働いている方々のために、公共交通の維持というのは、これからもやっていかなければいけないと思っています。1つの取組として今やっているのは、予約型のコミュニティバスです。これは今、安塚区、浦川原区、大島区、牧区、板倉区といった13区のところで広げていて、市内には公共交通が利用しづらいところもありますので、そういった地域に目を向けなければいけないと思っています。

**関根学園高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容**

し、同時に、運転手が足りないという状況もあります。バスもタクシーも運転手が高齢化してきていますので、市民の皆さんの協力がなければ、公共交通も維持できないと思っています。

利用者数を確保するため、最終的には観光客を増やすということも1つの手段になってくるとは思いますが、これもやはり時間がかかることなので、この土地の食や文化の魅力を見せるための準備をしようと思ったら、やはり10年、20年単位で時間がかかります。

どちらにしても、そういう取組を続けながら、公共交通の維持というのは、喫緊の課題として絶対にやっていかなければいけないことだと思っています。

（生徒）

私は進学してから地元就職しようと思っているんですが、地元就職にあたって、Uターンして戻ってくる人や、市外に出ずに地元で貢献しようとしている人たちへの就職支援は、今どのような感じになっているのか教えていただきたいです。

（市長）

どのような分野を目指されるかというのはありますけども、全体の傾向とすると、どの分野でも今、人手が不足している状況があります。

もちろん、面接や試験を受けていただいてから採用となりますので、一概に希望すればどこでも就職できるということではないんですけども、雇う側も「ここで働きたい」という意欲のある人を求めていますので、進学でどちらへ行かれるか分かりませんが、そういう方の就職先は豊富にあるんじゃないかと思っています。

（生徒）

上越妙高駅周辺の発展について質問です。私は妙高の方から通っていて、前の質問にもあったとおり電車の本数が少ないので、学校帰りに上越妙高駅の周辺で過ごすことがあるんですが、あまりお店とかがなくて、すごく改善して欲しいです。

（市長）

上越妙高駅周辺については、私たちが「商業地域」として計画していたエリアの約8割がもう利用されているんですね。

私たちとすると、今の方針としては、IT企業進出のためのビルも建っていて、西側などにはコワーキングスペースもありますし、先進的な「ローカル5G」の取組も地元企業がやってくれていて、そういう拠点にしていきたいと考えています。

あと、今、妙高の方には海外資本による開発の動きがありますので、上越・妙高の間で連携をしながら、観光の拠点としてそういう盛り上げの仕方をしていかなければいけないと思っています。観光客数が増えてくれば、お店なども充実してくる可能性はあると思い

関根学園高等学校・生徒と市長との対話集会 意見交換の内容

ますが、お客さんがいないところに店ができてなかなか持続的な経営ができないので、どうしてもそういうことになるのかと思っています。

ですので、私とすると、さきほども申し上げましたが、海外の方にも来ていただけて、この地域の魅力を認めてもらえるようなサービスを提供しなければいけないと思っています。

（生徒）

2つ質問させていただきたいのですが、1つ目が、小学校から高校までの教育で、市が主に力を入れている点を教えていただきたいと思っています。

そして2つ目が、地域活動をする中で、市の職員の皆さんが、私たち高校生や一般の市民に対してやって欲しいこととかがあったら、お聞きしたいと思っています。

（市長）

市には教育委員会というのがあって、主に小中学校の運営を行っていますが、高校に関わる場所は主に県の管轄で、市には直接の担当者は少ないということがあります。高校卒業後の地元就職等も踏まえると、市としてもこれから考えていかなければいけないと思っています。

それともう1つは、今、旧諏訪小学校のところに「学びの多様化学校」というのを作る準備をしています。一人一人の特性・個性に合わせた学びができる場所を作っていかなければいけないと思っていまして、これは今まで上越市にはなかったんですけども、そういった生徒さんを受け入れていく場所に、ということで考えています。

それから、地域の中で市民に対してやって欲しいことというよりも、私たちとすると、いろいろな地域の魅力に気づいていただくとともに、今、担い手がいなくなりつつあることとか、地域の課題について調べていただいて、「何が必要とされているのか」を知っていただくことが大切と思っています。

自分で考えて、自分で課題を見つけて、自分で行動するということが、今求められています。昔と違って、働く人の人口、子どもの人口が減っていますから、1つ1つの暮らしそのものをできるだけ自分たちでやっていくこと、そして、みんなで助け合いながらやっていくということが大切だと思っていますので、友達同士で「自分たちに何ができるのか」ということを考えていただけると、面白いものになってくるんじゃないかなと思っています。

これからの時代を担うのは皆さんなので、そういう皆さんから地域のために頑張ってもらえただけで、その上の世代の私たちも元気になるんじゃないかなと思っています。

（生徒）

高校授業料無償化は、今どのような状況になっているのでしょうか。

関根学園高等学校・生徒と市長との対話集会
意見交換の内容

（市長）

この分野は、基本的には国の制度で、高等学校の就学支援金制度です。現在、公立・私立とも年収制限なく 11 万 8,800 円を支援しており、私立については年収約 590 万円未満の世帯には年間最大 39 万 6,000 円まで支援しています。また、私立については来年度から、年収制限なく年間最大 45 万 7,000 円まで支援が引き上げられる予定との報道がされていますけども、国の制度なので、決まるかどうかというのは私たちも分かりません。

どちらにしても、費用については基本的には保護者の皆さんが負担されているものと思いますが、今物価が高騰していますので、そういった支援があると助かるんじゃないかなとは思っています。

（生徒）

上越市で、最近子どもが遊んでいるところを見なくなってきていて、小さい子どもとか小中高生が遊んだり、少し時間をつぶしたりできる場所が少なかったり、決まった場所に固まっていたりするというのは感じています。公園とか体育館など遊べる場所があれば困らないんじゃないかと思っていて、なぜ少ないのかを知りたいです。

（市長）

私からすると、遊べるところはあると思っていて、市でも各地域に体育館とか公園を整備していますので、もし不便な点があればお聞かせいただきたいと思いますし、参考までに、市営体育館が 20 施設ありまして、冷暖房設備を設置しているところもありますし、公園も市街地だけで 140 か所以上あります。

もしそれで足りないとなると、ますます人件費や物価が高騰する中で、新たに整備する予算というのは難しい状況にありますので、何か工夫が必要になってくるんじゃないかなと思っています。